

DOCUMENT EYE

153

渋滞時の首都高を走るドライバーの車内での行動を観察する 70分間に観察された大型車両346台中 「ながら運転」をしていた大型車ドライバー45名

WHY

渋滞中の首都高を走るドライバーの車内での行動は?

高速道路における交通事故は、高速道路の延長にともない増加傾向にある。平成13年は1万4726件と、前年比2.7%増加、なかでも他の道路に比べて大型貨物車、普通貨物車の事故の増加が目立っている。

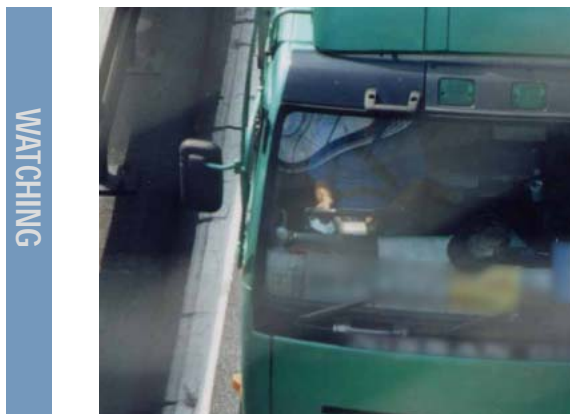
また、さらに、大型車両の事故を法令違反別にみると、脇見運転は21.0%と2割以上を占めている。「脇見運転」とい

と、一般的に「車外への脇見」をイメージしやすいが、脇見には2種類あり、「車内への脇見」というものもある。車内には運転以外のことに視線や意識が集中してしまつ危険が数多く潜んでいるといつこととをドライバーは認識すべきだ」と警鐘を鳴らす識者もいる(データはすべて平成13年度ビジュアルデータ 図でみる交通事故統計 (財)交通事故総合分析センター編)

渋滞の高速道路を走るドライバーは、車内でのような行動をしているのか。都心の首都高速道路で、シートベルトの着用の有無とあわせて観察した。



渋滞時、車間距離をとらずに走るクルマ



読書をするドライバー

WATCHING

携帯電話、喫煙、読書、探し物など前を見ていないドライバーが多い

観察場所は東京・千代田区の首都高速環状線外回りの北の丸トンネル出口付近。観察中は、断続的に渋滞が発生しており、完全にクルマの流れが止まることも珍しくなかった(最長で約20秒)。通行車両は、ノロノロ運転であるため、車間距離が極端に短かった。

観察の結果、70分間に渋滞の状況にあったのは、大型車346台・乗用車459台の計805台。車内での行動だが、携帯電話を使用していたドライバーが49名、喫煙中のドライバーが25名、探し物11名、本や地図、書類に目を通してドライバーが7名とさまざま(右下表参照)。観察日が平日の正午近くであったため、車内で食事をしてきたドライバーも5名いた。速度

観察地点/東京都千代田区北の丸首都高速環状線外回り北の丸トンネル出口付近
観察日/10月11日(金曜日)
天候/晴れ
観察時間/10:50~12:00
観察者/3名

が落ちはじめた途端に、携帯電話をハンドルの上に置き、液晶画面に見入るドライバーもいた。また、片ひざを立てて運転していたり、指2本だけハンドルにかけたり、ひじでハンドルを操作していたりと、運転マナーが極端に悪いドライバーも少なくなかった。助手席の女性と腕を組みながら運転していた男性ドライバーもいた。停車中に、後部座席側に身体をひねり、探し物を始める光景も珍しくなかった。

観察場所は分岐点に近いので、2車線のうち池袋方面のほうの流れがスムーズなため、渋滞中にウィンカーを出さずに突然車線変更を行なうクルマも多く、乗用車16台・大型車6台の計22台が観察された。シートベルトの着用状況は、大型車のドライバーの着用率が低く、346台中136台と、4割近くがシートベルトを着用していなかった。屋根のないオープンカーでシートベルトを着用していないドライバーも1名見かけた。

PROPOSE

小さな気の緩みが重大事故につながることを再認識して

今回の観察では、渋滞時に携帯電話の使用や喫煙、探し物など運転に集中していない行動をとるドライバーが多数目撃された。実際に観察されたように、合図を出さずに突然車線変更を始めるクルマ

	大型車両	乗用車	計
携帯電話の使用	19	30	49
タバコ	14	11	25
探し物	3	8	11
読書(マンガ、地図)	2	5	7
食事	4	1	5
会話	1	4	5
その他 <small>書類整理、カーナビ操作、同乗者と腕を組みながら運転、ひじや指でハンドル操作など</small>	2	6	8
計	45	65	110

	大型車両	乗用車	計	
シートベルト	着用	210	422	632
	非着用	136	37	173
計	346	459	805	

など思わぬ場面に遭遇した場合、これではとっさに対応できない。

シートベルトの非着用、運転姿勢の悪さも気になった。高速道路でのシートベルト非着用者の致死率は非常に高い。渋滞時などドライバーのちょっとした不注意や慢心から、追突事故を起こし、それにより車両火災が発生したり尊い生命が失われるといった悲惨な事故を引き起こしかねない。

脇見運転や焦りが重大事故につながることを再認識し、集中して運転してほしい。



写真上/携帯電話で話すシートベルト非着用のドライバー 写真下/ウィンカーを出さずに車線変更をするクルマ